

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1298900067		
法人名	株式会社 モデナ・ケアサービス		
事業所名	グループホーム 香取の杜 中々		
所在地	千葉県香取市小見川5598-1		
自己評価作成日	平成26年9月16日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

香取の杜中々は、居宅支援事業所を持っていない。そこが、特徴となつてか、地域全体の居宅介護支援事業所から等しく協力を得られている。今後も地域の居宅介護支援事業所との協力関係の維持推進に力を入れたい。香取の杜中々のグループホームは平屋建てで、同一建物内にグループホームとデイサービスとショートステイがあることからグループホームの入居者が地域の方々から孤立することなく交流できる。認知症対応型共同生活介護施設であることから認知症の方が利用されていますが、利用者様の残存機能をなるべく退化させない様に利用者様の五感に働きかけて何らかの効果が表れるよう利用者様の思いに寄り添い支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成26年10月15日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「グループホーム 香取の杜 中々」は和を基調とした平屋建ての施設となっており、デイサービスとショートステイが併設されている。併設施設とは、行事での交流・嘱託医及び看護師による対応・機械浴槽を始めとする設備の使用等、様々な連携が図られており、入居者のニーズに合わせた柔軟な支援を行っている。年間及び月間の行事・研修計画を適切に作成しており、入居者に対する楽しみの支援や人材の育成等に努めている。その他にも、運営推進会議・地域行事への参加等を通じて、地域との交流を図ると共に、地区会長と具体的な話し合いを行い、非常災害時における協力体制の構築も図っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念には、地域密着型のサービスを提供しようとする姿勢があらわれている事業者独自のものを構築している。理念は全職員の名札の裏に印刷し、いつでも確認できるようにして、理念を共有化し実践している。	法人理念及び施設理念を作成しており、施設内に掲示している。また、運営方針・職員倫理等も作成し、適切な施設運営に取り組んでいる。理念・運営方針・倫理等は、計画的に研修を実施しており、職員全員への周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の人の出入りは多く、交流の機会が必然的にもっている。くもんボランティア等地域のボランティアを受け入れている。複合施設のため通所者や短期利用者やレクなどをおし交流がもっている。地区の10月の水神祭では子供神輿が施設に来てくれる。近所の保育所とも発表会によばれるなど交流がある。	日頃から近隣住民とは挨拶を交わす関係を築いていると共に、地区会・町内会の回覧板のやり取りや地域行事への参加等、地域との交流機会も設けている。専門学生の実習受け入れ及び保育園児との交流行事を実施しており、世代間交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	香取市地域密着型サービス連絡会の一員として認知症よろず相談ステッカーを施設に掲示し認知症理解のために開放している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員や市職員や利用者家族様に声掛け、平成25年度は、人事移動交代含む会議メンバーの紹介。利用者様の状況。行事や活動報告。小規模介護施設と地域住民の協力による避難。消防防災訓練状況。熱中症予防、食中毒予防、インフルエンザ予防の実施状況。外部評価状況、市の実地指導の状況等を報告し意見交換した。	運営推進会議は、年に4回以上の実施を目指しており、地域住民代表・市役所職員・地域包括支援センター職員・入居者・家族等が出席している。議題として、施設の活動報告を行い、施設理解の促進を図ると共に、意見・情報交換を行い、施設サービスの向上に努めている。今後は、ニーズや状況を確認しながら、年6回の開催を目指し、調整を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	様々な制度、例えば介護保険法等の解釈や運用の方法について随時指導を受けるなど良好な関係を築いている。市担当者が係わる地域密着サービス連絡会議に管理者は参加している。公的情報をメール等で頂き、必要に応じて報告している。介護支援ネットワーク会議に参加し勉強させて頂いている。	随時、市に対して、運営に関する報告や相談を行い、連携を図っている。市が中心になって、「認知症よろず相談」を実施しており、地域のニーズに対応した取り組みも実施している。また、市の介護支援ネットワーク会議・地域密着型サービス連絡会に参加しており、市や同業者との意見・情報交換等を行っている。	

【千葉県】グループホーム 香取の杜 中々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	面会外出は自由であり、鍵をいかにして掛けないでケアするかという観点から、常に見守りを心掛け自由な行動ができるよう身体拘束はしない。ホームの主任は県の高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修を受け介護職と内容の共有を図ったり、新任職員オリエンテーション等で説明し、身体拘束をしないケアを行っている。	身体拘束排除及び虐待防止における研修を実施していると共に、職員倫理や運営方針にて身体拘束排除・虐待防止の項目を明文化している。玄関は安全確保の為施錠しているが、入居者の希望に応じて、職員が付き添いながら外出を支援し、自由な生活を損なわないよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、会社理念の中にあり、各職員の名札の裏に印刷しており、いつでも確認できるようにして、日常から職員相互で注意を払い防止している。身体拘束廃止研修基礎課程受講者がいて施設内全体に注意を払っている。入浴時に身体異常はないかチェックする。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の社会福祉協議会や地域包括支援センターや介護福祉課とは良好な関係を築いている。日常生活自立支援事業や成年後見制度について施設にある資料で概要を学ぶことはできるが、この制度の活用希望者はいない。平成25年10月の運営推進会議で市職員より成年後見制度について説明頂いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事は、利用者や家族の意思で利用申込みのあった方に対して、管理者等から説明を行い納得いただいで入居している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等面会あり、利用者や家族はその場で職員に意見できる。家族は来訪の際に直接言っている。職員は利用者にとって馴染みの暮らしが出来るように家族と相談して対応。ご意見箱も設置。意見は介護ケアの取り組みに活かしている。入居者間で気が合う合わないの感情的要望はあった。	家族の面会時や訪問時等に直接意見・要望等を確認している。また、写真と日々様子を手紙にした「ベストスマイル」を発行し、家族に施設での様子を報告している。挙がった意見・要望においては、申し送りノートや会議を活用し、職員に周知・検討の上、適切な改善を図っている。	

【千葉県】グループホーム 香取の杜 中々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は必要に応じて、管理者等にその都度相談している。職員のカンファレンス等で意見を述べる機会もある。職員の意見は管理者間で相談して対応するため必ずしも意見を取り上げるとは限らない。	定期的に職員会議を開催し、職員からの意見・提案を確認している他、管理者会議・施設長会議等も開催し、現場の意見を幹部に提出できる仕組みが構築されている。また、管理者が個別に職員の相談に乗る等、職員が働きやすい環境づくりに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するよう人事課や面接を行っている。会社の代表者は、事業全体の実績によって賞与又は手当等で給与面に還元している。契約社員でも職員個々の努力や実績によって正社員登用の道がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で職員勉強会を実施。介護の資格なく未経験の職員は社内初任者研修参加機会がある。向上心をもって資格を取得しようとする者は勤務上の配慮をする。外部研修は必要に応じた参加とする。施設運営上必要不可欠な資格取得については代表者の指示するところによる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、市の地域密着サービス連絡会議や介護支援ネットワーク会議に参加している。職員は、モデンナ・ケアサービスの各事業所間の行事等に任意で参加することができる。介護福祉系学生の実習を受け教えることで気付き共にケアの向上を図る。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と十分に話し合いをもち、又、家族や入居前活用していた居宅支援事業所からも情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、丁寧な説明を行うと共に疑問や不安を傾聴し、十分に家族と話し合いを行っている。		

【千葉県】グループホーム 香取の杜 中々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人からの要望を聴取し、入居前活用していた居宅支援事業所からの情報を把握し計画を作成し実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業を入居者の状況を見ながら共に行っている。プランターで菜園や花を育てたり、おやつ作りなど可能な範囲でともに行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院の同行や面会の機会を持つなどご協力頂いている。利用者の暮らしぶりや状態を家族に知って頂くため都度状況報告し相談をしている。毎月、写真とスタッフによる利用者の様子等を記載した「ベストスマイル」と題するホームだよりを家族に郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の主治医への通院支援実施。友人知人來訪時は本人居室で面会している。デイサービスやショートステイが同一建物に併設しているため通所介護や短期入所生活介護の利用者と交流もある。買い物や外出支援も行っている。	友人・知人・家族の訪問等を随時受け付けており、馴染みの関係継続に配慮している。また、馴染みの医療機関・理美容の利用等を支援し、馴染みの場への外出も実施している。その他にも、併設のデイサービス・ショートステイの利用者との交流行事を通じて、馴染みの関係継続及び新たな関係の構築を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席順は利用者の意向を聞いたうえで相性なども踏まえて決めている。外出時のグループ分け等を配慮している。トラブルや訴えに応じて都度工夫変更している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅で見れる状況になったと退居した方が開設以後3名いた。また、グループホームに入居したが落ち着けないと再び在宅を選んだ方が1名いた。退居時指導を行い、その後のサービス利用に当たり情報提供する旨を伝えた。入居前利用していた居宅事業所に相談にのって頂けるよう依頼した。		

【千葉県】グループホーム 香取の杜 中々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの訴えを傾聴し、本人や家族の思い意見の把握に努めている。会話や生活の様子を申し送りノートに記録し入居者の意向や思いを把握し、定期的カンファレンスで検討し入居者個々の生活支援に努めている。	入居時に、本人・家族から生活歴・意向・身体状況を確認していると共に、医療機関・他サービス事業所・市役所等からも情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。新たな情報は、随時、申し送りノートや会議を活用し、職員全員で共有できるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの訴えを傾聴し、本人や家族の思い意見の把握に努めている。会話や生活の様子を申し送りノートに記録し入居者の意向や思いを把握し、定期的カンファレンスで検討し入居者個々の生活支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックは毎日行い測定時に様態も聴く、歩行時食事摂取時なども状態観察を行い心身状態を把握する。状態が安定しない方については24時間シートを作成して観察する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望を聞き、ご家族の意向を反映し、カンファレンスにて話し合い介護計画を作成する。介護計画を作成しなおす時も同様にご本人の希望、ご家族の意向を重視し、カンファレンスにて話し合い介護計画を作成する。	定期的に会議を開催し、検討内容を踏まえて介護計画を作成している。また、目標の達成状況の確認や評価等も職員間で意見交換を行っており、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。必要に応じて、家族以外の医師や看護師との意見や情報交換を行う等、入居者のニーズ・身体状況の把握に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、体調管理の記入、職員間の申し送りで情報を共有し、日々のケアや介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族から入居前の暮らし方等もうかがい。本人と地域の関係等も把握し、外出活動等で継続できるように支援している。		

【千葉県】グループホーム 香取の杜 中々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族から入居前の暮らし方等もうかがい。本人と地域との関係等も把握し、外出活動等で継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人及び家族の希望のかかりつけ医に受診し、希望に応じて通院の付添いも支援する。併設のショートステイに医務室が設置され定期的に嘱託医の往診がある。医療面でショートステイ看護師の協力を得ている。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、必要に応じて、職員が通院の付き添いを支援している。定期的に併設のショートステイの嘱託医による往診を実施していると共に、必要時には、歯科医の往診も可能となっており、適切な医療支援を行っている。その他にも、随時、併設施設の看護師と連携が可能となっており、健康管理や緊急時の処置等、手厚い体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートを活用、また介護職は併設のショートステイなどの看護師にオンコール体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時の付き添いにより医療情報を把握し、介護職からも医療従事者に施設での様子を伝えている。利用者の係り付け医療機関を大切にしている。入院の際、定期的に家族や病院の担当者などと話し合いの場を持ち医療情報を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より、本人、ご家族と話し合い、担当医から指導頂いた結果をもとに、日々の申し送りや月に1度のカンファレンスにて方針を共有している。	契約時に終末期及び重度化における施設方針を説明していると共に、延命処置の同意書等を交わしている。必要時には、家族に意向を確認すると共に、医師・看護師の意見の確認・職員間での検討を行い、意向に沿った終末期を支援できるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で実施した緊急時対応の勉強会の資料やマニュアルを見て備えている。急変や事故発生の場合は同一施設内の看護師や管理者にオンコール体制をとっている。利用者様の様態急変に対し、介護職が適切な対応が取れるようにするための実践的備えとして、介護職員は普通救命講習を受講した。		

【千葉県】グループホーム 香取の杜 中々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下に地震や火災時の避難訓練、消火訓練、通報訓練、夜間想定訓練を実施し、訓練後消防署から講評頂いている。消火栓、スプリンクラー、消火器、通報設備を設置している。防災資料は職員が見れるようにしている。災害時は区長より地区区民センターを避難場所として開放いただける。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、災害時の備蓄も施設独自で行っている。年2回の消防避難訓練及び定期的の設備点検を実施しており、訓練では、消火器訓練・夜間想定訓練・消防署立会いの訓練等、様々な内容で実施している。また、併設施設と合同で訓練しており、緊急時・災害時における連携の強化を図っている。その他にも、地区会長と具体的な話し合いを重ねており、災害時における地区区民センターの開放等、協力を得られる関係を構築している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員入職時に介護職としての心得や接遇マナーを教育し個人情報保護についても同意書を書き交わして入居者のプライバシーを損ねないよう努めている。	接遇やプライバシー保護に関する研修を実施しており、職員への理解を促進している。また、必要に応じて、同性介助を実施していると共に、入浴及び排泄の拒否においては、無理強いせず、タイミングや声掛けを工夫し、入居者の尊厳に配慮した支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらの都合で決めることなく、ご本人の希望で自己決定できるまで、時間がかかっても見守るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れは決まっているが、職員側の都合でケアしてしまう事のないように利用者の体調や希望などを考慮し、レクなども声掛けはするが、強要することなどはせず、支援している。リビングで食事したくない時は部屋で食事したり時間をずらす事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の移動美容室の提供。服装や髪の乱れは職員が介助して整える。更衣時等入居者の希望に沿った支援をしている。		



【千葉県】グループホーム 香取の杜 中々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はショートステイ所属の栄養士がバランスや楽しみを考慮して作成したものを調理員が調理するが、入居者の希望や能力に応じて食事の準備やおやつ作りを共同で行うよう努めている。おやつ作りは楽しみに配慮して行ったり、専門店から和菓子や洋菓子を取り寄せて楽しむ。	食事の調理・献立作成等は、併設施設の専属職員が行っており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、入居者と職員が食事の準備・盛り付け・片付けを共同で行っている。定期的に手作りおやつ・外食・行事食等を企画・実施しており、食の楽しみを支援している。その他にも、ぶどう狩り等、行事を工夫し、季節感を楽しめる取り組みも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立。食事の声掛け会話で状態把握し摂取支援する。1日の水分量をチェックし総摂取量を把握する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導・介助を実施をし、実施状況をチェックしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	コール対応及び定時誘導を行い、排泄チェック表から排泄パターンを把握している。	排泄チェックリストを活用し、個々のパターンを把握しながら、声掛け・トイレ誘導を行っており、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、乳製品の提供等、自然排便を促すよう配慮している。必要時には、併設施設の嘱託医・看護師に相談し、適切な処置及び対応を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の入居者様には、なるべく自然排便ができるよう、牛乳や乳製品の物を提供している。排便が何日無いかを一目でわかる様にチェック表に記入し、スタッフ全員で共有している。毎日、昼食前に体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節感を味わえるように菖蒲湯・ゆず湯等実施。普段は個浴の方も入居者同士がコミュニケーションを図れるように大浴槽も利用している。体調や希望に応じて入浴の回数・時間の調整をしている。身体状況によって併設施設の特殊浴槽も利用する。	入居者の希望や体調に合わせて柔軟に対応し、適切な入浴機会を確保していると共に、清拭・部分浴・シャワー浴等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。また、併設デイサービスの特殊浴槽を使用することが可能となっており、入居者の身体状況に合わせた入浴支援を行っている。	

【千葉県】グループホーム 香取の杜 中々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、睡眠は本人の自由だが、生活リズムが崩れない程度に声掛けしている。入居者の体調や希望に応じて、午睡時間や休息時間を確保している。日々の生活リズムは個人差があるため朝が遅い利用者様は食事時間をずらしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬は併設施設の看護師室に保管している。介護職員は日頃より入居者個々の薬説に目を通し服薬状況を把握し、お薬変更時などは申し送りにて情報の共有の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、掃除、食事の片付け等を入居者の状況希望により職員と共に行う。プランターで家庭菜園の野菜を収穫し漬物を漬けて入居者が味わったり、デイサービスのレクに参加したり、外出、外食などを計画実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	マッサージに通いたい、墓参りがしたいなど個々の希望による日常的な外出支援は家族協力を得ている。職員は、季節に合わせた外出行事を企画実施している。入居者の希望や天候に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出を実施。	日頃から散歩・買い物等の外出支援を行っていると共に、家族の協力を得ながら、お墓参りや馴染みの商店等への個別の外出も行っている。定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。その他にも、併設のデイサービスとの交流を通じて、入居者の生活の活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物への同行支援。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の許容範囲内での電話及び手紙のやり取りの支援。		

【千葉県】グループホーム 香取の杜 中々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームはバリアフリーの和を基調とした造りとなっていて、清潔で広がりのある空間を整え、窓も多く日中は心地よい光が差すように設計されている。玄関・廊下、リビングに季節の花を飾り、廊下には適度に入居者様の作品や写真を展示している。	施設は、和を基調とした平屋造りとなっており、十分な介助スペースを確保したバリアフリーの構造となっている。共有スペースには、ソファ・テーブル・椅子を設置し、テレビや音楽を楽しみながら、ゆっくりとくつろげる環境作りがなされている。また、季節の飾り付けや作品の掲示等、明るく楽しい雰囲気作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを中心にソファを囲んでいる。リビング内にテーブル・ソファ及び廊下にベンチを設置して入居者同士の談話ができるに工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室で、本人が自宅で愛用していた物を、居室に持ち込んでいただいています。馴染みの家具を持ち込んだりして、思い思いのレイアウトで過ごしている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの物を持ち込むことが可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。全居室に畳が敷かれ、直接、布団を敷くことも可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。全居室にエアコンが完備されており、適切な空調管理がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は明るく、簡素で落ち着いた色合いで、けばけばしい装飾はなく、お年寄りに居心地が良い空間となるように配慮している。廊下は衝撃吸収性の素材が使われ手摺が設置されており、建物全体に段差無く、ドワは横引きで車椅子でも活動しやすく、安全に配慮したものとなっている。		